

# もみじ

-広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報-



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: [hgakuren@lime.ocn.ne.jp](mailto:hgakuren@lime.ocn.ne.jp)

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 中国高校登山大会県予選 (9/18 十方山、他) 報告
2. 寄稿『たわしのたわごと』
3. 岳連短信 (1 寄贈御礼 2 セミナー延期日時訂正)

## 1. 中国高校登山大会県予選報告

(高体連事務局 修道高校 内藤弘泰)

令和 3 年度 広島県高等学校登山大会

(第 61 回中国高校登山大会県予選)

大会の結果を報告いたします。

【日程】令和 3 年 9 月 17 日 (金) ~ 18 日 (土)

【場所】広島市西区・広島学院高校、

安芸太田町・十方山一帯

【参加者数】選手 10 校・47 名、役員・監督 22 名

大会結果は、

男子団体が、① 広島学院 99.5 点 ② 修道 98.2 点 ③ 安古市 90.9 点 ④ 廿日市 90.1 点 ⑤ 五日市 89.7 点 ⑥ 基町 85.3 点 ⑦ 国際学院 84.3 点 ⑧ 高陽 83.8 点 という結果でした。

団体女子は、① ノートルダム清心 99.8 点 ② 基町 90.5 点 ③ 五日市 83.7 点 となりました。

上位大会である中国大会には、例年ならば 6 位以上が出場できるのですが、今年は感染症対策で、各県男女 1 チームずつ (開催県だけ 2 チームずつ) という制約となっています。今年度は広島県が開催県ですので、男子は広島学院と修道、女子はノートルダム清心と基町が出場権を獲得しました。健闘を祈ります。

上述のように今年度の中国大会を本県で開催するため、この県予選はリハーサル大会と位置づけて、

中国大会とまったく同じタイムスケジュールで行う予定で 1 年以上前から準備をしてきました。しかし 8 月からの緊急事態宣言を受け、本来の予定の 9/3~9/5 を 2 週間延期し、内容も縮小して、参加は各校男女 1 パーティまで、幕営・炊事なしの日帰り 2 日間に変更しました。ただ、本番と同じ山に登っておかないと、さすがに中国大会の運営に支障を来しますので、日帰りでの十方山登山を実施することになりました。選手の皆さんは、早朝に集合して貸切バスに乗って移動し、登山した後にすぐにバスに乗って帰る、ということになり、負担が大きかったかもしれず申し訳ありませんでした。

しかも、せっかく 2 週間延期したにも関わらず、9/17 (金) に台風 14 号が急に進路を曲げて広島に迫ってきました。学校が休校になる中、大会 1 日目は中止せざるをえなくなりました。(生徒はいませんが) 顧問の先生方だけ広島学院に集まり、翌 2 日目の登山行動について、実施の可否も含め話し合いを行いました。3 時間に及ぶ会議でしたが、様々なリスクを検証し、その解決策を練り上げていく広島県の登山部の顧問の先生方は、とても頼もしく感動しました。

心配をよそに 2 日目はなんとか天候が回復し (といっても小雨が降り続けました)、登山行動を実施することができました。予選はこの 2 日目だけの審査 (読図・歩行チェック・記録書・装備審査) で順位をつけることになりました。9/19 (日) に教員だけ広島学院の講堂に集まり、審査集計とオンラインでの閉会式&成績発表を行いました。

リハーサルが十分にできていないため、中国大会

本番では至らないところが多々あるかもしれませんが、他県の選手の皆さんに良い経験をしてもらえるよう、尽力したいと考えています。



当日朝、広島駅からバスで二軒小屋駐車場へ



十方山頂 (チーム行動なので、既に多くのチームは下山)



11:30 に一斉スタート



下山後に泥まみれの靴を洗う選手たち

## 2. 寄稿『たわしのたわごと』

(理事長 豊田 和司)

「遅れて来た読者」たわしのたわごと

樹

樹のように生きることができたら  
海外旅行などしたいと思わないで  
風や雲や空や  
世界のほうが自分を訪れてくれると  
思うことができたなら

樹のように生きることができたら  
光と水を恵んでくださる天に笑顔に向け  
地中深く根をめぐらせて  
その場所で出会う事物を取り込んで  
毎年若葉で希望を語る事ができたら



コース中の読図ポイントをチェックする選手たち

だがそのように生きてはいない  
ここではない他の場所を求めて  
かもしれなかった人生に思いを馳せて  
今こうしてここにあることに感謝もせずに  
残りの時間を茫然と眺めて日々を過ごしてゆく

樹のように生きることができたら  
半日首が痛くなるまで見上げて  
樹にとって私は一瞬の幻  
夕暮れ鳥たちはねぐらに帰る  
風が枝々をしずかにわたる

ああ  
そのように  
生きることができたら

三宅修氏の心の中で起きたようなことが、安国寺恵瓊にも起きた、つまり心の師と新緑の取り合わせが、大きなトラウマを解消したと仮定して、昨年その場所を特定する旅に出た。旅、といっても安国寺(広島市牛田町)から毛利元就の郡山城(安芸高田市吉田町)まで直線距離にして約 40km。歩行速度を時速 4 km として、昼休みを入れても 11 時間。早朝出発すれば、夕方には着くと予想した。しかし 1 回目は 7 時間歩いたところで、足にマメができ、八千代支所前でリタイア。そこからバスで吉田町に行くが、毛利氏の資料を展示した安芸高田市歴史民俗博物館はコロナのため休館。2 回目はそこよりさらに手前の大林でマメのためリタイア。まったく、地平線通信読者の風上(風下?)にもおけない仕儀と相成った。この 2 回で、ほぼ場所の特定はできたが、確証を得るため、先日ズルをして JR 可部線で可部駅まで行き、そこから 7 時間かけて、やっと郡山城跡まで到達することができた。

昨年 2 回目、大林で引き返す時、「伊勢が坪城入口」の看板に誘われて、熊谷氏の居城跡を訪れた。当時、旅する僧は重要な情報源。だとしたら、恵心らは、毛利氏の配下にあった熊谷氏に面会し一泊。翌朝郡山城を目指した可能性もある。

当初、アスファルト道をひたすら上り続ける無味乾

燥な旅を覚悟していたが、さにあらず。川沿いの気持ちのいい道がほとんどで、太田川、根の谷川に沿って歩くと、山が両方から迫って来て、急峻な霧切谷(キリキリダニ)をよじ登ると、驚いたことに、そこからはゆるやかながら川は下っているのだ。簸川(ヒノカワ)、江の川と下って吉田町に着く。私が特定した場所は、この霧切谷で、三次市で発生した霧が南下して来てここで切れるために、この名がある。時刻は斜光に映えて新緑がより美しい早朝か夕刻。熊谷氏の居城を早朝出発した直後か、毛利氏の郡山城を辞して、夕刻ここに差ししかかった頃であろう。

さて、太田川沿いに歩いていて、奇妙な光景に出会った。河原に二本棒が立っており棒の先に害鳥除けであろうか、鳥の形をした凧が、一方のは勢いよく宙を舞っているのに、二メートルも離れていないもう一方のはだらしなく着地している。自分がもしも恵瓊なら、この光景から「たとえ仇の風でも、自分を高々と舞い上がらせてくれる風を選ぼう」とでもいった啓示を得るのではなかろうか。無論、当時このようなものはない。しかし、心の師と一緒に旅をしているという大きな安堵感のなかでは、何を見、何を聞いても、それが前向きなメッセージに変換されるのではないか。そしてその運命は、三宅修氏が串田孫一氏と一緒に土合山の家を出発したとき、恵瓊が恵心と安国寺を踏み出したとき、すでに決まっていたのではなかろうか。

パラグライダー発射台にて詠める  
春立つや宙に踏み出す一步より たわし

### 3. 岳連短信

#### 1. 寄贈御礼

三原山の会『筆影』No. 499 (10 月号)  
福山山岳会『会報』R3. 10 月号  
広島山岳会『山嶺』第 874 号 (R3. 9 月)  
広島やまびこ会『やまびこ』781  
広島山稜会『峠通信』第 748 号 (10 月)  
長野県山岳協会『やまなみ』No. 242 9/10  
『中信高校山岳部かわらばん』698 (9/22)

## 2. 山岳SCセミナー延期日時の訂正

『もみじ』前号（210号）で、山岳・スポーツクライミングセミナーの延期日時を当初3月25日としていましたが、正しくは3月27日（日）でした。

### 編集部より

- この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。
- 会員団体会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。
- この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい